

## 机間指導・机間観察・机間支援（生徒のみとり）

「机間指導って何ですか」と以前、教育実習生に聞かれたことがあります。横にいたもうひとりの実習生は、「あの、机の間をぐるぐる回るやつですよ」といいました。きっとその実習生の先生は、手を後ろに組み机の間を回りながら、「こりゃ。ちゃんとやれ!」とか言っていたのでしょうか。一昔前は、これを「机間巡視」といって、警備のように回る先生方が多くおられました。

時代は変わって、「机間指導」「机間観察」そして、「机間支援」の時代です。

「机間指導」「机間観察」「机間支援」と、いろいろ使われていますが、今回は、私の好みで「机間指導」と言葉を統一させてください。

### 机間指導の目的はなんですか？どんな方法がありますか？

#### <机間指導の目的とチェックポイント>

##### ◇ざっと見て回って、クラス全体の学習状況を把握しましょう。

- ・学級は、学習に集中していますか。
- ・全員が課題の意味を理解していますか。
- ・時間はどの程度かかりそうですか。

##### ◇生徒の反応を見とり、どのように授業に生かすのかを考えましょう。

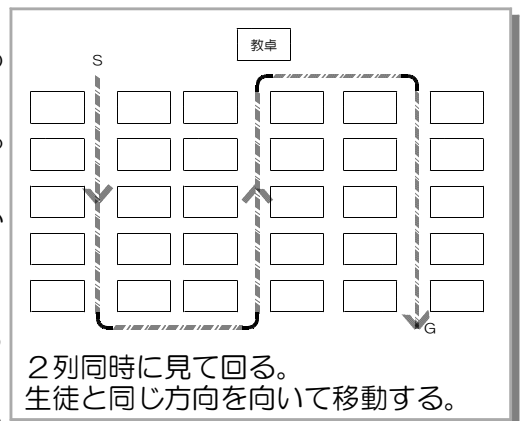
- ・意図的な指名で進める際には、その順番はどうしたら効果的であるか考えましょう。
- ・自由発言で進めるとしても、ぜひ、取り上げたい考えはどれですか。授業に沿って決めましょう。

##### ◇観察の視点を決めて回り、生徒の学習状況を把握し、助言するようにしましょう。（指導と評価の一体化）

- ・評価基準に基づき、「努力を要する」（評価C）の生徒を評価Bにあげる指導をしましょう。この生徒は、個別指導が必要な生徒です。
- ・「学習の高まり、深まり」の見られる生徒には、「発展課題」や次の指示を出しましょう。この生徒は、小学校時代からずっと「授業中待たされていた」生徒たちです。
- ・「関心・意欲・態度」「思考・判断・表現」については、机間指導時に学習状況をつかむことが大切です。状況をつかむために座席表やメモ用紙があるとよいかもしれません。

#### <机間指導の技術いろいろ>

- ・高い位置から見下ろすのではなく、腰をかがめて一人ひとりの学習の様子をつかみましょう。
- ・座席表を利用して、生徒のアイデアや様子をメモすることがあります。
- ・生徒の目線と同じ方向、同じ高さで話をすると圧迫感が少ないようです。これは、カウンセリングでも活用されます。
- ・効率的に教室を回るための工夫をしましょう。【右図参照】
  - 2列同時に見て回ります。進む方向が生徒と同じようになるように、後ずさりしながら、見ることもあります。
  - S（スタート）の位置を変えることも必要です。「右から・左から 真ん中から」をいつも同じにすると、反応を読み取ることのできない生徒がです。
- ・指導の手立て（「CをBにする」「発展課題を与える」など）は事前に準備しておきましょう。
- ・助言は3回に分けるぐらいの気持ちで指導を行いましょう。（「1回目は概略をつかみ・2回目はざっと生徒に指導を入れ、3回目で個別指導にみっちりあたる」…など）
- ・特定の生徒だけににつききりにならないようにし、できるだけ多くの生徒に声をかけるようにしましょう。（ただし、特に手厚く支援を設定する場合もあります）
- ・TTでは、どこまで分かればよいのかを事前に打ち合わせて授業しましょう。
- ・丸つけをして回るのも効果的です。個人的にその子をほめることができる絶好のチャンスです。



（参考 秋田のそこちから・附属山口中学校資料）